

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300186		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 日の里 (かなやま・じょうやま)		
所在地	〒811-3425 福岡県宗像市日の里7丁目25番2号 TEL 0940-36-6051		
自己評価作成日	平成28年08月08日	評価結果確定日	平成28年09月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaiigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年09月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に寄り添い喜怒哀楽を分かち合おう」を理念に掲げ、明るさと元気で職員がこの理念をお客様の介護に活かせるようとりくんでいる。認知症ケア専門士の資格を有する職員もあり、日々の介護に活かしている。ホームの開放的な窓からはマウンテンビューとなっており、四季折々の情緒豊かな表情を楽しむことができ、ホーム内は落ち着いた優しい風合いの内装になっており、照明も明るすぎず、穏やかな雰囲気を醸し出している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ニチイケアセンター 日の里」は、地域の認知症高齢者が家族や親しい人達に見守られ、楽しく暮らせる介護事業所として2年前に開設し、小規模多機能ホーム併設の2ユニット(定員18名)のグループホームである。協力医療機関の医師による24時間の医療連携が確立し、利用者が、重度化してもホームで暮らせる環境を整えている。運営推進会議を中心に、地域との信頼関係が始まり、利用者と職員は、地域の一員として、祭りや活動に参加し、ホームのレクリエーションや食事会、餅つき等に、地域のボランティアや家族が参加し、地域交流の輪が広がっている。利用者の能力に合わせて、料理の下拵えや後片付けを手伝ってもらい、日に日に元気で明るくなる利用者の様子を見守る家族は、喜びに包まれ、深い信頼関係が築かれているグループホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの「共に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合おう」を全員で共有し日々のケアに取り組んでいる。	ホームが目指す介護の在り方を示した理念、「共に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合おう」を、開設時の職員で話し合って作成し、掲示している。職員は、理念を心に留めて、利用者一人ひとりの思いや意向を受け止め、日常生活の楽しみと張り合いに繋げ、地域の中で穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。	申し送りや職員ミーティングの時に理念を唱和したり、理念に沿った介護サービスが提供出来ているかを確認する等、ホームの柱となる理念を大切にした取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃活動やどんど焼き(施設の杵、臼貸し出し有)などへ参加することで交流を図っている。ニチイ祭り(年末の餅つきなど)へ地域の方をお誘いし、ご参加を頂いている。	運営推進会議の参加委員から情報を得て、地域の清掃活動やどんど焼き等に参加し、ニチイ祭りを始め、各種イベント時に、地域の方や家族を招く等、地域交流が始まっている。敬老会では、ボランティアによる琴の演奏が予定され、中学生の職場体験の受け入れも行っている。	開設時から、地域住民の協力が得られており、この地域性を活かし、今後、地域と協力して、認知症カフェや徘徊模擬訓練、介護相談事業等、地域貢献へ向けての取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議を起点に、ご家族を対象に認知症の理解についての説明会を開催することもあり、介護経験談や悩みを話されたりと貴重な時間を共有できた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に開催をしている。2ヶ月間の出来事や行事内容、利用状況なども合わせて報告している。会議中に頂いた評価やご意見は、スタッフへ通達し、申し送りやミーティングで意見交換を行っている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、「日の里を何とかしたい」という地域代表を始めとする参加者のホームに対する期待も高く、活発に意見、提案が出されている。「こども110番」の登録や、表札の設置、消防団との交流について等、具体的な提案について検討し、出来る事から取り組み、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状の持参、介護保険証の更新や助成金の申請手続を通して、市町村担当者と対面し、話をする機会を多く持つようにしている。	管理者は、行政担当窓口に、疑問点や困難事例の相談、事故報告を行い、運営推進会議の案内を手渡しする等、連携を図っている。また、2ヶ月に1回開催される地域密着連絡会に介護保険課職員の参加があり、意見や情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関やユニットの扉の施錠は基本的には防犯目的以外行うことはない。介護職としての経験が様々なので今後の研修やミーティングなどで理解を深めていかなければならない。	身体拘束が利用者に及ぼす弊害について、職員の基本的な考えが統一されていないので、研修会や勉強会を通じて、拘束の具体的な事例を挙げて研修し、身体拘束をしない介護サービスを目指している。また、玄関やユニットの扉の施錠は夜間以外行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連法についてはミーティングで取り上げているが、職員それぞれが完全に熟知するまでには至っていないが、虐待がないよう、お客様の状態観察等、細心の注意を払っている。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
8	6 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についてはミーティングでとりあげているほか、現在後見人を立てて入居されている方もおられるので、密に連絡を取りながら、支援が行えている。	現在、権利擁護の制度を活用している利用者がいるので、実務を通して制度についての理解を深めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、内容についての説明や、申請機関への橋渡しが出来る体制を整えている。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項取り扱い説明書内容を読み上げながら、理解しやすいようご説明を行い、理解と納得を得てから、署名、捺印を頂いている。		
10	7 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様に顧客満足度調査を実施している。その結果を踏まえて改善を図るよう職員一同努めている。	日常の関わりの中で、利用者の意見や要望を聴いている。家族については、面会時、運営推進会議時、年1、2回開催する家族会等の機会に、意見や要望を聞き取り、ホームの運営に活かせるように取り組んでいる。また、家族に対しては顧客満足度調査を実施し、家族の声を大切にしている。	
11	8 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談の場をもうけており、それ以外にも必要に応じてその都度職員と話すようにしている。	毎月1回、職員ミーティングを行い、職員の意見や要望、提案等を聞き取り、ホームの運営や業務改善に反映させている。定期的に個人面談を実施する等、管理者は個別にも意見、要望を聞く機会を設けている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格や勤続年数に応じて給与に反映させている。また介護に関する知識考査を順次行い、昇給するシステムを取り入れている。有給休暇や夏期休暇については人員配置が落ち着きつつある為、推進を行って始めている。		
13	9 ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の求人に関しては、初任者研修(ヘルパー2級)、介護支援専門員の指定はするが、それ以外の条件を付することはない。職員は、それぞれの得意分野を活かしながら不得手な分野はフォローし合いながら明日に繋がる支援をしている。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、役割分担や適材適所の勤務体制に取り組み、職員一人ひとりが働きやすい職場を目指している。また、休憩室を確保し、休憩時間や勤務時間、希望休等に柔軟に配慮し、職員が生き生きと楽しく仕事が出来る就労環境に向けて取り組んでいる。	
14	10 ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は日頃から職員に人権に関する話をしているが、今後のステップアップとして、外部の講習等の参加を勧め、自己啓発に取り組んでもらいたい。	利用者の人権を尊重する介護について、研修会や職員会議の中で繰り返し話し合い、職員の共通理解に努めている。職員は、利用者に寄り添い、利用者の個性や生活習慣を大切にした介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも出向けるようになってきている。それとともに、法人内の研修と一定の知識や技能、経験を満たすスタッフに対して昇給するキャリアアップ制度を設けている。		
16	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な事業所ネットワーク会議や事例研究発表会に参加し、スタッフ間で資料を参考にしたり、情報をお共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
17	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅または現在利用中のサービス事業所へお伺いし、状況を把握したり、ご本人様の不安解消や要望の聞き取りに注力している。ホームへの見学にもお越し頂き、ご入居後の生活イメージしやすいように配慮している。		
18	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご納得頂くまでホームの様子を見学していただきたり、ホームの理念や現在の状況や取り組み、一日の生活の流れ等を分かりやすくお伝えし、その過程で良好な関係を築けるよう努めている。		
19	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様やご家族様の置かれている状況を熟知した上で、当ホームへの入居も含めてアドバイスさせて頂いている。お客様やご家族様に十分納得頂ける支援の提供に努めている。		
20	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いていく	食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみ、敷地内の草取り等、お客様の有する能力を見極め、能力を発揮することで、ホームの一員であることを実感して頂けるよう支援している。		
21	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には頻回に面会に来て頂いている。面会中も他のお客様やご家族の方々と交流を持たれたりホームの余暇活動に参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限を設けず、お気軽に面会して頂けるような雰囲気作りやご家族様の協力を得ながら、行きつけの美容室に行かれたり通院されたりしている。また思い出のフォトアルバム等を持ち込まれ、時折見返しながらご家族や友人との繋がりを忘れないよう支援している。	利用者の希望を聴き取り、自宅の掃除に出かけたり、美容院や買い物に職員が同伴する等、利用者の馴染みの関係が継続出来るように取り組んでいる。また、近隣から入居の利用者が多く、家族を始め、友人、知人の面会が多い。職員は、ゆっくり話が出来るように場所やお茶等を提供し、また来て頂けるよう声掛けしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支え合いながらも適度に距離を保てるような支援をおこなっている。お客様同士の関係も大切にし、スタッフが間に入ることで、さらに良好な関係になるよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームを退去なさった方については、次の利用サービス事業所や介護支援専門員へ時期をみて連絡し、近況をお聞きしたり、退去後のフォローアップを行っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時にお客様がどのような暮らしを望まれているのかを、ご家族を交えて聞き取りをしている。ご入居後もお客様の思いを汲み取りながら、ご家族にも面会時に意向をお尋ねしている。	職員は、利用者とのコミュニケーションの取り方を工夫しながら、思いや意向を聞き出し、職員間で共有し、介護の実践に反映出来るように取り組んでいる。意向表出の困難な利用者には、家族に相談し、職員が利用者に寄り添い、話しかけ、利用者の状態を観察しながら、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当ホームにご入居前に利用されていた事業所や介護支援専門員からも情報提供を頂きながら、ご家族様には状況申告書をお渡しし把握している限りの情報を記入して頂くとともに、ご入居後もお客様は勿論のこと、ご家族様からも常に聞き取りを行い、現在のケアに繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等で全職員がお客様の現状を把握するよう努めている。連絡ノート、記録を通して職員が情報共有、現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の生活暦や希望を大切しつつ、ご家族様や職員をはじめ、お客様に携わる関係者と話し合い、意見をとりまとめている。現状に伴った介護計画の作成に努めている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて職員間で検討し、介護計画の見直しを行っている。	職員不足のため、カンファレンスを実施する事が難しい状況である。利用者のその人らしい暮らしを支援するため、定期的にカンファレンスを実施し、職員の気づきや意見の集約が望まれる。

自己 外 部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への個別記録を明瞭にしている。記録に基づいて実践や介護計画の見直しに反映している。介護記録に対する評価は徐々に出来るようになってきている。		
30	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の協力を仰ぎながら、病院受診など、事業所として柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
31	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報把握をしながら、地域の中での地域の一員としてお客様が快適に暮らせるよう事業所としても支援している。		
32	14 ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期往診に来訪して頂いている。往診時には管理者が常駐し医師へお客様の状態を報告している。医師からも細やかな指示を頂き、健康管理に努めている。	入居時に利用者や家族の希望を聞いて、かかりつけ医を決定している。現在、18名全員が協力医による2週間毎の往診を受け、安心の医療体制が整っている。他科受診については、家族対応か、若しくは管理者が同行受診し、どちらの場合も密に連絡を取り合いながら、情報の共有に努めている。	
33	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の看護師と常時、電話連絡できる体制にある。往診前のバイタルなどの健康状態の報告や日々の健康相談も密に行い情報交換できるようにしている。		
34	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに治療できるよう書面にて情報提供を行うと共に、必要であれば、電話や入院先に直接出向いて病院関係者と情報交換や信頼関係の構築にしている。		
35	15 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の方向性や終末期についての話はしている。事業所として、出来ることと出来ないことを見極めながら、ケースバイケースで取り組んで行きたい。	ターミナルケアについては、契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援と出来ない支援について説明している。利用者の重度化に合わせて、今後の方針を家族や主治医と話し合い、ホームで看取る事が出来るように、職員の介護技術の向上を図り、利用者や家族が最後まで安心できる終末期の支援を目指している。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的にを行い、実践力を身に付けている	ミーティングではお客様個別の緊急時の対応について話しているが、なかなか訓練とまでは行っていない状況。救急法も講習依頼、受講計画を検討、立案中。		
37	16 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害、予防、対応マニュアルや消防計画において、対応方法や避難場所等の詳細を定めているが、全職員が的確に行動できるとはまだまだ言い難い。地域との協力、連携は取れており、具体的な内容を今後更に深める必要あり。	年2回、消防署の参加を得た防災訓練を、1階の小規模多機能と合同で実施している。2階と3階の利用者18名を、火元から遠い一時避難場所に誘導し、消防車の救出を待つ体制が整っている。地域の防災訓練には管理者が参加し、協力体制を築いている。また、非常用備蓄に関しては、水の準備が整い、非常食を少しづつ買い足しているところである。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
38	17 ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を「お客様」として捉え、お客様の人格や誇りを損ねないよう全職員に通達している。取り組みとしては未熟の域を超えないが、地道に強化を行っている。	共同生活の中で、利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護について職員間で検討し、特に、排泄や入浴介助時には、利用者のプライドや羞恥心に配慮した対応を心掛けている。また、本人の希望を聞いて、同性介助を望まれる方には、そのように対応している。	
39	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給や食事など、お客様が選択できるような雰囲気作りを心がけている。些細な希望や自己決定が出来る配慮を大切にしている。		
40	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の生活パターンを把握して、お客様主体の毎日が過ごせるよう、会話の内容や仕種から希望を聞き、可能な限り支援している。		
41	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部から利美容師に来訪を依頼したり、近隣の理美容室にご家族様付き添いで行かれている。時折、ご家族様に衣類などの購入を依頼し、お客様が衣類を選択して好みや気分に合わせて着用出来るよう支援している。		
42	18 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや副菜のつぎ分けなど、楽しくして頂けるよう調理前の話題から献立について提起したり、後の作業や話題に繋がるような声かけをしている。	毎日の米研ぎや、おかずのつぎ分け等、その方の出来る事をもらっている。ユニット毎に献立を立て、季節の食材を使い、職員が交代で手作りの美味しい食事を提供している。介助の必要な利用者の横には職員が座り、ゆっくり声掛けしながら、和やかな食事の時間である。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士が作成した献立をもとに内容を工夫してバランスよく栄養を摂取できるように心がけている。食事や水分量に関しては、お客様別に記録、チェックを行い、適正量が摂取できるよう配慮している。		
44	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、自力で頂けるように支援し、介助を要する方は職員がお手伝いすることで残渣物などを取り除くようケアしている。		
45 19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄パターンや排泄動作能力を把握し、適切な排泄誘導や声かけを行い、オムツや紙パンツ、パットの使用頻度を極力減らし自立に近づけている。	トイレで排泄したり、オムツを使用しないで済む暮らしの支援は、利用者の生きる力を引き出すと捉え、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行い、失敗の少ないトイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。細やかな対応により、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。	
46	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、便秘については気を配り、ヨーグルトや乳酸飲料を毎日摂取して頂くようにしている。運動への働きかけも適宜行っている。また提携医や看護師と相談し下剤を定期薬に処方して頂き、指示のもと調整を行い対応している。		
47 20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心から介助職員が異性であることを好まれないお客様には同性職員の介助で入浴して頂いたり、可能な限り時間の要望に沿えるよう支援している。	入浴は週2～3回を基本とし、利用者の希望を優先して何時でも入れる支援に取り組んでいる。同性介助を希望された時には、利用者の希望に沿った支援を行っている。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもお客様の申し出や疲労感、体への負担を考慮して、自室にて休まれている。また夜間、途中で覚醒され眠れない方には、飲み物をお勧めしたり、会話などをすることで、安眠して頂けるようにしている。		
49	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細内容については、薬表ファイルを活用し、処方薬の変更時には口頭での申し送り加え、管理日誌、記録での伝達をしている。服薬時には職員2人が確認に関わるようにし、服薬直前には、名前や日時を再度お客様と一緒に確認している。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦を日常生活に反映できるよう支援したり、食事やおやつに嗜好品を取り入れたりしている。また、遠方のご家族様やお孫様の帰省時には、面会前の時期からお客様にとって楽しみになるよう、会話に織り交ぜている。		
51	21 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岀かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内にベンチや椅子を設け談笑したり、私用でご家族様と外出されたりしている。またようやく企画を立てて外出レクが可能になってきたので、まだまだ回数は少ないが、ご家族様のご協力を得ながら増やしていく様子。	気候の良い時期は、近隣への散歩や、外気浴をしながら季節を感じ取ってもらっている。また、宮地嶽神社の菖蒲祭りや日の里の蛍観賞等、少しづつ外出レクにも取り組んでいる。家族の協力で、外出や外食に出かけてもらい、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さは理解しているが、お客様の認知症により、お金を所持したり使うことは現実的に困難である。外出等の機会にお金を所持したり使用する場面が増えればと思う。		
53	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在入居中のお客様は、ご家族様の面会頻度が多い為、電話や手紙のニーズが低いが、習慣や風習を思い出し、声かけにより希望される方もおられる。		
54	22 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の開放的な窓からは山々を見渡すことができ、晴天時には稜線が美しく、四季折々の表情を楽しませてくれる。お客様にとって保養と癒しになっている。またテーブルには野草や花を飾るなどして、心地よい空間作りを目指している。	リビングルームから眺める四季折々の景色、テーブルに飾られた生花、壁に貼られた利用者の笑顔の写真等、季節感、生活感を探り入れた共用空間である。また、清掃が行き届き、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。	
55	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にテレビを囲んでのソファースペースを設け、小さなコミュニティを作れるよう、その時々でレイアウトを変えながら配慮している。		
56	23 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が愛用している家具や雑貨等思い思いの品々を持ち込まれ、ご自宅での空間を出来る限り再現している。	家族や関係者の協力を得て、利用者が長年使い慣れた家具や寝具、大切にしていた身の回りの物を持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに過ごせる居室となるよう工夫している。	
57	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、手摺りを随所に設置して安全確保に配慮している。また、洗面所やトイレ等、分かりやすく表示し、自立生活を送りやすいよう工夫している。		